

尾木ママ節で 子育て論熱弁

「教育は未来への投資」

沖 縄

「尾木ママ」の愛称で親しまれ、テレビや雑誌などで活躍する教育評論家の尾木直樹さんの講演会が5月27日、沖縄市民会館であり、約1,000人が詰め掛けた。「こそ！教育と社会のつながりを」をテーマに、日本の教育の展望について、自身の子育てや芸能界情報、冗談などを交えながら熱く講演。「子育てで一番大事なのはどうかやって自立させるか。教育は未来への投資」と唱えた。

子どもの孤独感指摘

尾木さんは靴ひもを結ぶのが遅い子どもを事例に「大丈夫か?」「早く!」という声掛けは大人目線です。子どもが萎縮してしまうと説明。「『大丈夫?』と聞かれたら、ごまかすように『大丈夫』としか返ってこないでしょ。『どうしたの?』と声を掛けることで共感できるのよ」と話した。

被災地を訪問した経験も挙げ、「つらい思いをしている人には、『しんどいわね』『大変だったね』と相づちを打つたり、寄り添う言葉を掛けるとエンパワーメント(力づけ)につながります」と呼び掛けた。

経済協力開発機構(OECD)

調査や日本への国連勧告などを挙げ、「孤独」と答える子どもが日本は先進国で突出していると説明。教育費の自己負担も突出しており、捻出するため家族は仕事やパートなどに向かわざるを得ず、家族間の絆も薄れている事列

があると説明。「学力はフリーライン。国家がお金を出さないと説明。「学力はフリーライン。国家がお金を出さないと説明。」と改革の必要性を訴えた。

「パネルディスカッションでは主催者のNPOエンカレッジ理事長の坂崎紀さんやNPOバリアフリーネットワーク

会議代表の親川修さん、琉球新報記者の佐藤ひろこさん、青年会議所沖縄ブロック協議会長の宮平貴裕さんらが、沖縄の教育を取り巻く現状や展望について報告した。



尾木直樹さんは約1500人の聴衆を前に教育問題を熱く語った

— 沖縄市民会館